

## ● 創刊にあたって

科学技術振興事業団 文献情報部長 西田龍正

科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）は、科学技術振興事業団（JST）が平成10年度から開発し平成11年10月から運用している、学協会の電子ジャーナル発行を支援する共同利用センターです。運用を開始してからこれまでの約1年半の間に35学会誌がこのシステムに搭載されました。さらに、数十に上る学会誌等の掲載が現在予定されており、事業は順調に発展してきております。

この間、欧米では、CrossRefやChemPortに代表されるように、電子ジャーナル間の相互リンクや引用文献から原文献へのリンク、電子ジャーナルと二次データベース間のリンクをはじめ、さまざまなかたちのリンクを可能にすることによって、電子ジャーナルとしての機能を強化しており、電子的な情報の流通が非常な勢いで進んでいます。

わが国においてもこうした欧米の動きに伍して、電子ジャーナル化を一層押し進め、J-STAGEの引用文献リンク機能を十分に活用し、国内外の電子ジャーナル間のリンクを実現し、科学技術情報の迅速な流通を図っていかねばなりません。

こうした状況の下で、J-STAGEニュースが創刊されることは非常に意義深いことと思います。私共としては、J-STAGEニュースを通じて、学協会等との意志疎通を十分図り協力関係を一層強化し、わが国の電子ジャーナル化を飛躍的に促進したいと願っています。今後、J-STAGEがわが国の電子的な情報流通の中核として確固たるものになり、その役割を果たすことができるようにしていきたいと思っております。

## ● 利用学会懇談会を開催

さる3月15日（木）にJ-STAGEを利用している学協会及び印刷会社関係者などにJST東京本部地下1階ホールにお集まりいただき、利用学会懇談会を開催しました。

会議では、JST側から、平成12年度の運用・開発の概要報告、平成13年度の運用・開発予定の概要、さらにリンクの拡充に向けての折衝状況等について、報告を行った後、ディスカッションに移りました。席上、学協会側からは、実際にJ-STAGEを利用した上での、感想、機能の追加、改善等について具体的な要望が出されました。

各学協会のJ-STAGEに対する期待の大きさが伝わってくるような熱心なディスカッションでした。今後、更なる学会数の増加を考慮し、より効率的で、学協会側の多様なニーズを反映できるようなJ-STAGEとすることを確認し、懇談会を終えました。





## より使いやすいシステムをめざして -J-STAGE運用・開発の現状-

平成11年10月より運用を開始した「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」につきましては、多くの学協会の皆様のご理解、ご協力をいただきながら、今日まで運用・開発を進めてまいりました。この間、JSTでは、登載雑誌の増加に努めるとともに、学協会の皆様のご要望等を伺いながら、システムの改良、新規機能の開発を行うよう努めてまいりました。また、その内容につきましても、説明会、学会訪問等の機会を利用し、学協会の皆様へお知らせするよう努めてまいりました。

さらに、この度J-STAGEニュースを創刊し、学協会の皆様はじめ、広く関係者の方々にシステムの現状についてお知らせする機会を得ることができましたので、その概要を以下にまとめてみることにいたしました。

### 拡がる利用

平成13年2月末現在で、ジャーナルについては57誌、大会演題登録システムについては4誌、の各利用申請を学協会からいただいています。現在、J-STAGE上で閲覧することができる電子ジャーナルは35誌(図1)ですが、学協会からの利用申請を受けた各雑誌については、電子化のための手続き、データの作成を鋭意進めております。これから4月末にかけて新規雑誌が続々登載されて行く予定です。今後のJ-STAGEにどうぞご注目下さい。

また、電子ジャーナルを閲覧する側からの利用も急速に増加しています。J-STAGEへのアクセス総数は、平成12年度後半から急速にその数を増し、現在では、毎月10万件を超えるアクセス数をカウントしています(図2)。そのほか、日本国内の多くの大学図書館のホームページからJ-STAGEへのリンクも増加し、JSTで把握しているだけでも、その数は65を超えています。

このように、J-STAGEは、電子ジャーナルを作成する側からも、あるいは電子ジャーナル化された情報を利用する側からも、その認知度は高まり、利用も増大しています。

### 新しい機能の開発

平成12年度においては、以下の新規機能を開発いたしました。ご利用については、JST担当者にお尋ね下さい。

#### 【大会演題登録システム】

このシステムは、各学会で開催する学術大会において発表される演題を募集し、抄録等を登録するシステムです。このシステムについては、デモ画面を用意しております(図3)。J-STAGEトップページからご利用いただけますので、是非お試して下さい。

#### 【認証機能】

J-STAGE上での電子ジャーナルの公開範囲について、例えば、学会員や購読者には全文、一般の閲覧者には抄録まで、というように制限を設定する機能です。

一方で、J-STAGE構築の目的のひとつに、日本の研究成果を世界に向けて速やかに発信するということがありますので、特に英文誌については、今後もより積極的な公開をお願いしたいと考えております。

#### 【電子付録】

動画、音声、そして高精細画像などの情報を付録として公開することができます。電子ジャーナルのひとつの特徴と言える機能です。

Acoustical Science and Technology
Bulletin of the Chemical Society of Japan
Cell Structure and Function
Clinical Pediatric Endocrinology
Environmental Health and Preventive Medicine
Japanese Heart Journal
Japanese Journal of Applied Physics
Journal of Chemical Software
Journal of Computer Aided Chemistry
Journal of Equine Science
Journal of Nippon Medical School
Journal of Physical Therapy Science
Journal of Physiological Anthropology(Applied Human Science)
Journal of Radiation Research
Journal of Structural and Functional Genomics
Journal of the Japanese Physical Therapy Association
Journal of the Physical Society of Japan
Journal of Veterinary Medical Science
Microbes and Environments
Optical Review
Progress of Theoretical Physics
RADIOISOTOPES
The Japanese Journal of Pharmacology
Zoological Science
可視化情報学会論文集
源流
コンピュータソフトウェア
資源と素材
生物物理
電気製鋼
日本原子力学会英文論文誌
日本繁殖生物学会誌
日本分子腫瘍マーカー研究会誌
日本レオロジー学会誌
プラズマ・核融合学会誌

図1 J-STAGE雑誌一覧(平成13年2月末現在)

### 【新着案内】

閲覧者があらかじめ関心のある電子ジャーナルについて登録しておく、最新号が発行された場合に、その案内をする機能です。読みたいジャーナルの発行をすばやくチェックできます。

### 受入データ形式の拡大

J-STAGEでは、システムの機能を十分利用できるDTPソフトとして、Adobe社のFrameMaker+SGMLを推奨しています。

一方で、この方式以外のデータ作成方法を希望する学協会もあるため、FrameMaker+SGML以外のツール等により作成される電子ジャーナルデータも受け入れています。現状では、以下の3方式に対するサポートを実現しています。

- 1) Bib形式データ \*1
- 2) 正規化TeXデータ
- 3) 独自SGMLデータ

また、J-STAGEでは、従来は当面1雑誌、しかも英文誌を優先してのシステムご利用をお願いしておりましたが、複数誌でのご利用も受け入れることにいたしました。ご希望がございましたらご相談下さい。

\*1 項目ごとに記述したDBに搭載するためのデータ形式(標準テキストファイル)。

### 引用文献リンクの拡大に向けて

電子ジャーナルの大きな特長であるリンク機能については、その拡充について学協会の皆様からの強いご要望があります。JSTでは、その実現に努めています。J-STGAEからは、既にJOIS、PubMedとのリンクが実現していますが、さらにCrossRef、ChemPortとのリンクに向けて調整を続けています。CrossRefとは、契約に向けて折衝中、ChemPortとは、実際にリンクを張るテストを実施する段階まで進んでいます。

### さらなる取り組み

平成13年度に向けては、現行システムの改良等を行うとともに、XML技術の導入、さらには、各学協会の多様な要望にも対応した、より柔軟で使いやすいシステムを構築できるよう努めていく所存です。各学協会の皆様にも、実際にJ-STAGEをお使いいただいてのご意見、ご要望などを、お寄せ下さいますよう今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

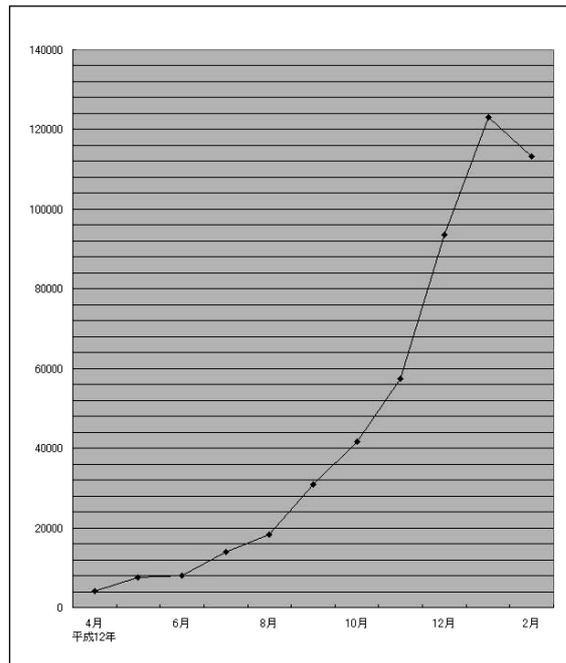


図2 J-STAGE月別アクセス総数の推移

図3 大会演題登録システムデモ画面

## データアップロードを開始した印刷会社について

J-STAGEでは、ご利用申請をいただいた後、学会、印刷会社、JST、そして実際にこのシステムの運用・開発を委託しているNTTラーニングシステムズ(株)を交えて、ご利用方法、スケジュールについて打合わせを実施しております。

その後、主に印刷会社の技術者との間で、データの作成、検証のやりとりを経て、独自にデータアップロードが行えるようになるまで、その水準を高めて行きます。

J-STAGEでは、データを独自にアップロード可能であると判断するために、いくつかの項目ごとに基準を設けています。これらの基準をクリアした印刷会社については、独自のデータアップロードが可能であることをJSTが認めています。Web版のJ-STAGEニュースでジャーナル名を紹介するとともに、雑誌の奥付に相当するページで、データ作成者として印刷会社名を表示しています。なお、この基準については、雑誌単位で判断することとし、印刷会社単位とはなっておりません。

## XMLワークショップを開催

3月9日にJST地下ホールでXMLワークショップを開催しました。このワークショップはXML仕様検討委員会の検討結果ならびにXMLツール開発の成果を発表するために開催したもので、成果発表、イリノイ大学のDr. William H. Mischoの講演、海外招待者などによるパネルディスカッションを行いました。科学技術分野におけるXMLの将来形をテーマに、国内外の専門家を交えて、海外の現状、今後の動向などについて広く意見交換し、また、会場にはデモブースも設けて、JSTで開発したXMLエディタなど、学協会の電子ジャーナル化を支援するツールの公開を行い会場の皆様に使って見ていただきました。これらの成果は、将来J-STAGEのシステムに反映させる予定にしています。



## 東京国際ブックフェア2001/デジタルパブリッシングフェアに出展

JST電子ジャーナル部門では、2001年4月19日(木)~22日(日)に、東京ビッグサイトにおいて開催される東京国際ブックフェア2001に出展することになりました。このフェアは東京国際ブックフェアと同時開催される7つのフェアからなっており、このうちのひとつであるデジタルパブリッシングフェアにJ-STAGEを出展することになりました。このフェアには、コンテンツのデジタル化技術・サービス、コンテンツのネットワーク配信技術に関する内容が出展される予定です。

東京国際ブックフェアは前回も4万人を超える来場者のあった規模の大きな展示会です。J-STAGE以外にも、興味深い展示も多くあるように思います。ご招待状を同封いたしましたので、よろしければご来場いただきますようご案内申し上げます。

### ■ 編集後記 ■

■J-STAGEの事業が開始され早くも3年近くが経過しました。各学会の事務局や編集委員の先生に連絡を取り、J-STAGEの説明を申し入れましたが、当初は説明に伺えない学会もありました。今では、J-STAGEの事業はかなり認識されてきたと考えていますが、ご連絡を差し上げた節にはよろしく願います(吉)。

■J-STAGEも利用していただく学協会が増えたことでもあるので、利用者とシステム運用・開発側の間の情報交換ができるニュース誌のようなものを発行したら良いのではないだろうか、という声を聞いたのは昨年の夏頃になるでしょうか。今回は、創刊号ということもあり、JST側からの記事ばかりになりましたが、次号以降では、利用学協会の皆様からの声なども掲載できればと考えております(松)。

J-STAGEニュース No.1 2001年3月30日

**J-STAGE**

<http://www.jstage.jst.go.jp>

編集 科学技術振興事業団 文献情報部 電子ジャーナル部門  
発行人 文献情報部長 西田龍正  
住所 〒103-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ  
電話 03-5214-8455 (ダイヤルイン)